

心理より

【セカンドステップ】

清心寮で小学生とセカンドステップに取り組むようになって、今年で3年目になります。暴力以外の方法で問題を解決できるように、みんなでも考えたり話し合いをしていくプログラムです。『こんな時どんな気持ちか?』『困った場面でのんな解決方法があるか?』『何かしたことがある時にどんな風に伝えたいか?』当たり前に思えることでも、わざわざ考えたことがない、うまくいく解決策なんて知らない、そんなことをしてもうまくいくわけない・・・というようなことが結構あるように思います。

例えば、カッとなるとすぐに手が出てしまう、『暴力はあかん』と怒られ続け、そんなことはわかってるけど、いざとなったら自分でも止められない、殴るのがダメなら、じゃあどうしたらいいのかわからない・・・そんな子は少なくないと思います。セカンドステップでは、怒りの感覚を振り返ったり、キレそうになったら『その場から離れる』『相手が言う事を聞かなかったら、自分

が手を出してしまいう前に大人に言う』など、暴力以外の方法で、具体的にどうしたらいいのかを考え、話し合ったり、練習したりします。

それでも、レッスンの中では答えられても、実際のケンカの場面で思いつけるかと言ったら、それは別問題です。セカンドステップで生活とが生活の中で使える、役に立つかもしれないという実感、生活につなげる難しさというのはずっとありました。また、手を出されることが多い子は『そんなの考えても意味ない』『どうせ殴られる』と最初から諦めているような状態でした。

現在、週に一度の小学生のお話し会で、毎回のセカンドステップの振り返りをしてもらっています。生活を一緒に過ごす先生からみんなの前で話をしてもらうというのは、セカンドステップでやったことは生活場面で使うものだということ、職員みんなが知っていて、全体で取り組んでいこうと思っていることを伝えるためには、一番の機会だと思っています。また、生活の中で『こういう時どうすればいいんやっただ?』と声をかけてもらえたり、例えばイライラした時に自分から『離れる』ができた時などには、その瞬間に

きたことを言葉で返して認めてもらえたりすると、そこで初めて自分の生活とのつながり、実感が生まれると思います。セカンドステップの時間に、ある子が「ケンカになりそうな時に、自分は手を出さずに相手を事務所に連れて行った。」という報告をしてくれて、感動したことがあります。心の中のモヤモヤもイライラも整理できず、自分ではどうしようもなく、手を出して、怒られての繰り返しから抜けられなかった時を思うと、本人の中でも少しずつ何か変化があるのかなと思います。セカンドステップでやったということが大事なのではなく、友達との関係の中で、自分の言動でうまくいった、認めてもらえた、よかったなという実感が、自信にもつながったらいいなと思っています。

最近のセカンドステップは、一人一人としっかり話ができるように、2〜3人の少人数で行っています。自分の考えや気持ちを話すことが苦手な子は多く、気持ちを問われても状況しか言えなかったり、他児の答えを真似るだけで答えている自分になっていたりと、自分の気持ちや、自分で考えるということの感覚

自体も曖昧な子がいます。毎日の生活の中でも、言葉にできない心の中のモヤモヤやイライラの衝動が、暴力や暴言、泣き叫ぶなどの行動で表出されてしまうことはよくあります。まず、『今自分はどんな気持ちなのか?』『どう思っているのか?』に気付くこと、その感覚を持つこと、そのためには、その時感じていることがどういふことなのかを表す言葉と一緒に自覚することが大切です。日々の生活の中でいっぱいいろんなことを感じて、会話し、気付いて、誰かと共有して・・・そういう一瞬一瞬の積み重ねから、心も成長していくのだと思います。セカンドステップでも生活の場でも、子ども一人一人の、一つ一つの気持ちを大切にしていきたいなと思います。

(内貴)

